

奄美諸島の音声データベース化に向けて（1）

—瀬戸内町古仁屋方言—

松 森 晶 子

1. 琉球諸方言の音声データベース化に向けて

現在、急速な勢いで消滅しつつある琉球諸方言を、良質な音声とともに記録・保存し、将来の方言教育、言語研究に役立てようとする試みが開始されつつある。なかでも岡村ほか（2006、2009）の『徳之島方言二千文辞典』は、その模範とも言えるものだろう。

本稿の目的は、その『徳之島方言二千文辞典』にならって、鹿児島県大島郡瀬戸内町^{せとうちちょう}の古仁屋^{こにや}方言の発話文のデータを提示することである。デジタル録音された音声データは、別途、何らかの形で公開したいと思っているが、本稿ではそれに先立ち、収集された発話文を音韻表記したものを公開する。同時に本稿は、奄美諸島、および琉球諸語の多様な文例を音声データベース化していく際の、調査表の一例を提示することも目的としている。

本調査表の作成には、古仁屋方言のすぐれた話し手である義永秀親氏^{よしながひでちか}（昭和2年1月生まれ、古仁屋出身）の協力を得ることができた。義永氏は、瀬戸内町文化協会の会長を昭和51年から平成7年にかけて務めた後、平成7年に瀬戸内町の町長となり、以後12年間（平成7年から平成19年まで）、町長の職にあった。氏は、奄美の伝統方言のすぐれた話し手である、というだけでなく、奄美の島唄についても造詣が深く、島の伝統的文化財の保護と継承のために、長年、精力的に活動してきた。また、奄美の伝統文化を継承していく上で、奄美方言（シマユミタ）の果たす役割がとりわけ大きいことを強く認識しており、そのため今回の調査表作成には特に熱心に取り組んでくださった。義永氏のご支援が得られなければ、この調査表の作成は不可能だっただろう。

さて、岡村ほか（2006）によれば、『徳之島方言二千文辞典』の土台となった調査表は、アンリ・フレの『二千文』をベースに作成された『日本語二千文』（川本茂雄、早稲田大学語学教育研究所語研選書（3）（1971））である。しかし、その調査表内の文例の中の話題には、社会習慣の違いや、島の生活感覚では想像しにくいもの、あるいは現代生活にはそぐわないものもあったことが、岡村ほか（2006：6）には記されている。（それにもかかわらず、実際に収録された『徳之島方言二千文辞典』の発話の音声を聞くと、生き生きした徳之島方言の発話データとなっていることが分かる。これは岡村氏の着想によって、多くの文例の語彙や表現などが徳之島の方言生活の実情に合ったものに入れ替えられ、より自然な発話になるような工夫が随所に成されたためだろう。）

そこで今回の奄美の瀬戸内町古仁屋方言の発話データの収集は、既存の調査表（特に標準語を

もとにして作成された文例集など)を借りて行うことは避け、その代わりに、できるだけ島の現代生活の実態に合った状況設定になるよう努めながら、あらたな調査表を作成することとした。

ところで筆者はこれまで、琉球祖語において想定される三種類のアクセント型のそれぞれに所属していたと考えられる語彙の概念—「系列別語彙」—を提示し、それを琉球諸方言のアクセントの通時的・共時的記述に使用することを提唱してきた。また、その系列別語彙の「候補語」となる語彙のリストを公開もしている(松森2000, 2009, 2010, 2011, 2012など)。今回、提示する調査表では、これらの系列別語彙の候補語が、現実に方言の発話の中で使用されている姿を観察できるようにすることも意図している。

以下に公開する古仁屋方言の発話文の中にも、筆者のこれまで提示した系列別語彙の候補語にすでに含まれている語のみならず、将来その候補語のリストにあらたに付け加えることのできるような語も数多く含まれている。その中から、標準語には存在しない、あるいはその音形が標準語の対応語とは異なる語だけを以下に列挙すれば、「頂上(t'icji)、(島の)景色((sjima)kagI)、貝(minja:)、兄ちゃん(anjoQk'wa)、かけっこ(haruk'una)、ザリガニ(magaN)、盛大に(kINdorosja)、櫛(sabaK)、祖父(FuQsjū)、祖母(haNnje)、親戚(sjiNdeNkja:)、家族(ja:niNzjo:)、嘘(sIrogutu)、約束事・取り決め(giNmE)、ごはん(muN)、朝ごはん(asabaN)、会合(jurE)、台所・納屋(to:gura)、食べ物(kamjumuN)、水甕(mI'tIhaNdo:)、耳甕(miNgamI)、豚(w'a:)、井戸(jugawa)、火('umaT)、煙(kIbusji)、薪(uduru)、竈(zjirjo:)、お釜(hagama)、斧(natamuN)、蚊(gazjaM)、夕方(jumagure)、日(太陽)(tIda)、川(ko:)、一日中(cjiNcjaru)、料理・ごちそう(sju:kI)、夕方(junok'ucji)、老人たち('uQcjuNkja:)、いきなり(atadaN)、砂糖黍(wugi)、棒(gui)、荒地・草むら(areMmI)、蛙(biki)、山羊(hiNzja)、尻尾(dIbo)、バツタ(gaQta)、かぼちゃ(to:t'Iburu)、姉ちゃん(aneQgwa)、さつま芋(hanusu)、苗(kara)、一昨年(micjunati)、いっしょに(mazjiN)、主食・弁当(haNmI)、籠(tIru)、久しぶりに(nagInagI)、杵(adImu)、鍬(to:gE)、季節(sjitI)」などである。

松森(2000, 2009, 2010, 2011, 2012)の提唱する系列別語彙の候補語リストは、2010年の喜界島調査を皮切りに開始された国立国語研究所の「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」の調査表作成の際の元データとなり、それを契機に同研究所の危機方言調査のための「基礎語彙」の中に取り入れられることになった(この経緯については、上野2014参照)。(松森(2000, 2009, 2010, 2011, 2012)の「系列別語彙」と、国立国語研究所の「基礎語彙」のリスト(木部ほか2011、木部(編)2012, 2013、上野2015参照)とを比較すると、一般名詞の多くについて、その語彙の種類が似通っていることが分かるが、これは以上のような理由による。)

しかし、系列別語彙の候補語にしても、国立国語研究所の「基礎語彙」の音声データにしても、今のところ、各語が「単独で」発音された場合のみの記述・報告にとどまっており、それらが実際に発話の中でどのように使用されるか、という視点からの記述や音声データの公開は、未だ存在していない。そこで本稿で提示する調査表は、系列別語彙の候補語(中でも特に上に挙げたような、標準語には存在しない、あるいはその音形が標準語のそれとはかけ離れているような語)が、実際に使用されている様子を観察できるような文例を含むよう、特に意識して作成した。

なお、文例作成に際しては、岡村ほか(2006, 2009)の『徳之島方言二千文辞典』の文例を参

照しながら行った。（本稿の調査表の文例の一部には『徳之島方言二千文辞典』のものと共通したものがあるのは、そのためである。）

文例の試案作成は、名瀬市内にある鹿児島県立奄美図書館において、同図書館収蔵の奄美方言関連の資料、および奄美諸島の郷土関連の図書などを参照しながら、筆者が行った。なお、各文の文型を決める際には、国立国語研究所の「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」における喜界島方言調査（木部ほか2011）、および宮古方言調査（木部（編）2012）で使用された文法項目調査のための文例も、参考にした。

文例のトピックやテーマを決めるに当たっては、奄美大島の宇検村教育委員会によって収録・公開されたDVD『焼内のシマユムタ』シリーズ（2006年から2012年にかけて公開）が参考になった。その中で展開される奄美方言の話し手の方々の島の生活の紹介や、座談会での方言話者の方々の会話の内容からは、多くの着想を得ることができた。さらに、筆者のこれまでの奄美諸島のアクセント調査において、筆者が奄美諸方言の話者の方々から直接聞いた体験談や、筆者自身が実際に奄美調査で経験したことなども、文例のトピックにした。

そのようにして作成された文例の試案を、まず義永氏に見せてご検討いただき、各文が古仁屋方言で表現しやすいものとなるよう、その中の語彙や表現を適宜、変更していただいた。その中には、奄美の昔の生活を思い出しながら、義永氏に自由に文を作成いただいたものも含まれている。このようにして作成された文例は、次のような10の大きなテーマから成りたっている。

- | | | | | |
|--------|---------|----------|---------|-------|
| I 遠足、 | II 子ども、 | III 生活、 | IV 昔の家、 | V 天候、 |
| VI 鳥唄、 | VII 鳥酒、 | VIII 動物、 | IX 農作物、 | X 名瀬行 |

音声データの収録は、2013年～2015年に行った5回の調査において、瀬戸内町古仁屋にある義永氏の自宅で行った。ひとつの文について、それぞれ2～3回ずつ発話していただいたが、このように同じ文を何度か発話していただくと、その度、少しずつ表現が異なる場合が出てきた。

そのように、いくつもの異なる表現が可能であることが分かった場合、あえてその文のうちのどれかを初めから選択せず、そのすべてをデータに残す方針とした。たとえば、以下の55番と182番の文例には、それぞれ、次のような二種類の表現が得られた。

55. 祖父と 祖母の 友人なども 来た。
- (1) FuQsju ta haNnje nu dusjiNkjaM umo:cjado
- (2) FuQsju ta haNnje ta dusjiNkjaM umo:cjado
182. これから シズノの ところに、三味線、 鳥唄を 習いに行くのだ。
- (1) nama hara sjizuno nu turo hacji saMsjeN sjima uta narega ikjo: cjido
- (2) nama hara sjizuno ta turo hacji saMsjeN sjima uta narega ikjo: cjido

ここから、この古仁屋方言の属格の助詞 nu は、親族名詞や固有名詞に後続する複数形態素 ta の後ろでは、出現しない、というような観察ができる。このような観察や分析を行う機会をできるだけ多く提供できるように、本調査では、異なる表現・語・形態素がその一部に出現した文例については、最初からそのうちの一つだけを選ばず、原則的にすべての発話例を記録する、という方針を採った。

2. 古仁屋方言の音韻表記の方針

以下では、中舌母音の [i]、[ë] は、それぞれ大文字の /I/、/E/ で示す。一拍の長さを持つ子音も、原則的に大文字で表記する（そのうち /N/ は撥音で、/Q/ は促音である）。ただし長音については /: / で示す。（長音記号は、コロン（:）で代用した。）また、喉頭（緊張）化した子音（無気音）は、/t'/、/k'/、/w'/ のように示すこととした。非喉頭化音については単に /t/、/k/ のように記述し、有気音には特に記号は当てていない。なお、語頭の声門閉鎖音には /amI/（雨）のように何も示していないが、そこに喉頭の緊張が存在する場合には、/'uma/（そこ）のように、母音の前に ' を付けて示した。語頭に出現する渡り音 [j] には、/jiNga/（男）のように /j/ を当てる。口蓋化した子音は、子音に /j/ を後続させて示した。たとえば、シ、ジ、チ は /sji/（シ）、/zji/（ジ）、/cji/（チ） になる。

参考文献

- 上野善道. 2014. 「喜界島方言のアクセント資料(3)」『国立国語研究所論集』7: 289-310
-----, 2015. 「与論島方言のアクセント資料(2)」『南島文化』37: 87-101. 沖縄国際大学南島文化研究所
岡村隆博・沢木幹栄・中島由美・福嶋秩子・菊池聡(編). 2006. 『徳之島方言二千文辞典』
信州大学人文学部
----- (編). 2009. 『徳之島方言二千文辞典一改訂版一』 徳之島方言の会.
木部暢子・窪蘭晴夫・下地賀代子・ローレンス ウェイン・松森晶子・竹田晃子. 2011. 『消滅危機方言
の調査・保存のための総合的研究—喜界島方言調査報告書』 国立国語研究所
木部暢子(編). 2012. 『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究—南琉球宮古方言調査報告書』 国立国語研究所
----- (編). 2013. 『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究—八丈方言調査報告書』 国立国語研究所
松森晶子. 2000. 「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から—」
『音声研究』4-1: 61-71. 日本音声学会
-----, 2009. 「沖縄本島金武方言の体言のアクセント型とその系列—琉球調査用系列別語彙の開発にむ
けて」『日本女子大学紀要 文学部』58: 97-122.
-----, 2010. 「多良間島の3型アクセントと『系列別語彙』」 上野善道(監修) 上野善道教授退職記念
論集編集委員会(編) 『日本語研究の12章』 東京: 明治書院. 490-503.
-----, 2011. 「喜界島祖語における 3 型アクセント体系の所属語彙—赤連と小野津の比較から」
『日本女子大学紀要 文学部』60: 87-106.
-----, 2012. 「琉球調査用『系列別語彙』の素案」『音声研究』16-1: 30-40. 日本音声学会

奄美諸島の表現： 瀬戸内町古仁屋方言

発話者： 義永 秀親

録音・表記担当： 松森 晶子

調査表作成者： 義永 秀親、松森 晶子

I. 遠足

1. あの山は 高そうに 見えるが、 そんなに 高くなく、
 (1) aN jama ja tahasaN gutuN mirjajuNbaM gaQsji gadI ta:Qkja ne: dana
 (2) aN jama ja tahasaN gunusji mirjajuNbaM gaQsji gadI ta:Qkja neNdana
 案外 登りやすい。
 umujuNk'uma nubori jaQsa
 umojuk'uma nubori jaQsa
2. 子ども でも、 かるがると 登ることができ そうだ。
 k'waNkja daro karugaru nuburarI cjagesaQdo
3. 車 に 乗らないで、 歩いていこう。
 (1) k'uruma naN nuraN gutusji aQcji ikjo:
 (2) k'uruma naN nuraN gutuNsji aQcji ikjo:
 (3) k'uruma naN nuraN gunusji aQcji iko:
4. あの山 の 頂上 からなら、 瀬戸内 の 海が きれいに 見える はずだ。
 aN jama nu t'icji kara naba setouci nu umi ja k'jura:sa mirja:rIN haQdo
5. 先月、 山に 行った時は、 あまりにも 景色 が きれいなので、感動した。
 sjeNgeT jama izjaN cjikiNnja aMmari sjima kagI nu k'jurasatI kaNsjiN sja:
6. あそこに 見えるのは、 舟 らしい。
 ama naN mirjaju:muNna funI cjagesa
7. 飛び魚が 海 の 上を 飛んでいるように 泳いでいるのも 見えた。
 tupiju nu umi nu w'E: ba tubjuN gutuN u:zjuN muN daro mirjaQta
8. 空 の 雲を 見てごらん。 今 から 雨 が 降り そうじゃないか。
 tIN nu k'umo micjiNni nama hara amI: nu furu cjagesa suka
9. この 4, 5日 は 雨 ばかり 降っているので、 家 に ばかり いる。
 (1) kuN sjigoNcji ja amI bEri furju: muNnatI ja: naN bIhEri uQdo
 (2) kuN sjigoNcji ja amI bEri furju: muNnatI ja: naN bEri uQdo
10. 天気 が 良くなったら、 海 へ 貝 を 採りに 行こう。
 teNki nu iQcjaku naru ba umi izji minja: turu ga ikjo:
11. 明日 こそ、 晴れるのでは ないか。
 acjaba kusa hareju:muNna araN kaja:
12. お前は だれと、 海 へ 行くのか。 たった一人 で 行っては だめだぞ。
 ura ja taQtu umi hacji ikjo: cijjo uraN c'juru sji izji ja ikjaNdo

13. 兄ちゃん と いっしょに 行きなさい。
 anjoQk'wa tu mazjiN ikI: jo
14. お弁当は、何に しょうか。 おにぎり で いいかな。
 beNto ja nu: ba sIro: kai nigirimeQsji iQcjaru kai
15. これだけ 作れば、 足りるんじゃ ないか。
 (1) kaQsa t'IkIrI ba tarju: muNna araN kai
 (2) kaQsa t'IkIrI ba tarju: muNna araN kaja
16. 子どもたちが たくさん 食べる から、 きっと、 それだけじゃ 足りないよ。
 k'waNkja nu waro: kamjuN karaN t'ImaR 'urudake sji ja taraNdo
17. もっと たくさん 作った方が いいんじゃないか。
 nja:fE: maNdi t'IkIrI ba du iQcjaQka neNna
18. あれ、牛みたいな形をした 雲 が、 空 に 浮かんでいるよ。
 are: usji nasji mirjarjuN k'umo nu tIN naN ucjuQdo
19. あの 雲 は、 大きいなあ。
 aN k'umo ja futE: saru ja:
20. この 道 は、 坂道(登り道) ばかり だね。
 kuN micji ja nuburimicji bIhER zjaja:
21. 歩いているうちに、 だんだん おなか が すいてきた。
 arIki sjirja njaNnjana wata nu hitIQcjado
22. こんなにまで 歩かされるとは、 思っても いなかったよ。
 gaQsji gadi arIkjasaN cji ja umo:tIM uraNtado
23. おなか が すいて、 もう 倒れ そうだ。
 wata nu hicji: nja: to:rIro: cji sji: do
24. どこで 弁当を 食べようか。
 da: naNtI beNto: kaM kaja:
25. あの 砂浜 の 上 が、 いいのじゃないか。
 ama nu sInahama nu w'E: du iQcjaQka neN kaja:
26. こっちへ おいで。 みんなで、 いっしょに 食べよう。
 kaN ko:ba miNna sji mazjiN kamo:
27. お前は、 たった 一つ しか 食べないのか。
 (1) ura ja tada t'IT sjika kamaNna
 (2) ura ja tada t'IT sjikja kamaNna
28. おにぎり は、 一人 に 3つ ずつ、 作っておいたよ。
 nigirimisji ja c'juru sji miT dIT t'IkItI ucja: do
29. もっと たくさん 食べなさい。
 nja:fE: waro: kamI:
30. ものを 食べ ながら、 あちこち 走りまわっては 駄目だ。
 muN kamja gacjana amakuma hasjiQcji ja ikjaN do

31. ちゃんと 座って 食べなさい。
 (1) k'jura:sa icju:tI kamI jo
 (2) cjaNto icju:tI kamI jo
32. 家 に 戻ったら、 時計 が なくなっていた。
 (1) ja: hacji modotaQtu tokei nu neN gunusji natI (neN gutusji natI)
 (2) ja: hacji mudotaQtu tokei nu neN gutuNsji natu:ta
33. 今朝、 家 を 出た 時 には 確かに していたのに。
 sIkama ja: ba izjitaN cjikiNnja tasjika hamItutaM haQzja muN
34. 浜 で 落とした に 違いない。
 hama naNtI utucjaN kutu ja macjige: neM

~~~~~

**Ⅱ. 子ども**

35. 昔、 学校 から 戻ると、 この 山 に 友達 と 遊びに 来た。  
 mukasji gaQko: hara mudoru ba kuN jama hacji dusjiNkja tu asIbIga c'ja: do
36. 山 で 兎を 捕ろうとしたが、 いつも 逃げられてしまった。  
 jama naNtI usa:K turo:cji sjaMbaM it'IM hiNgiraQta
37. 川 で 泳いだり、 ザリガニを 捕ったりした。  
 ko: naNtI w'E:zjaR magaM ba tutarI sja:
38. あの子 は 家 に いて、 本 ばかり 読んでいる。  
 aN k'wa ja ja: naN utI hoN bIhEri judIdu uru
39. あの子 は、 いつも 遊んで ばかり いる ようだが、 勉強 は できた。  
 aN k'wa ja it'IM asudI bIhEri wuN josuzjaga gakumuNna dIkE:juta
40. 昔 の 子どもたちは、 大人 が 弾くのを 見て、  
 mukasji nu warabINkja: ja fuQcju nu hikju: muN micji  
 いつのまにか 三味線を 覚えた。  
 iT numadoN saMsjeN naro: toruba
41. お前は、 誰 から 三味線を 習ったのか。  
 (1) ura ja tariN hara saMsjeN naro:tI  
 (2) ura ja tariN kara saMsjeN naro:tI
42. あの子 は、 三味線を 習いに 行っているらしい。  
 aN k'wa ja saMsjeN nare: ga izju:taru cjagesa
43. ちいさい時に 覚えた ことは、 いつまでも 忘れない。  
 inasariN ubE:taN kutu ja it'IgadIM wasIreraraN
44. 若い ときに、 しっかりと 勉強 しておきなさい。  
 wa:saN cjikiN jeito beNkjo: sjuQkI jo

45. 母 は よく、 ちいさい うちに  
 aMma ja zji:ku ina:sariN cjikiN  
 何でも よく 習って おきなさい、と 言っていた。  
 nu:deM iQcja naro:tI ukIjo: cji icju: ta
46. いくら 怒っても、 女 の 子は 殴っては いけないぞ。  
 ikjasji nIta:satIM wunaK nu k'wa: ba ja k'urawacji ja ikjaM
47. 子どもたちの 遊び道具は、 昔は 手作り だった。  
 k'waNkja nu asIbidoQkja mukaQsja do:tIkuru du atado
48. 男 の 子 は、 木 の 棒 で 刀 を 作って、 打ち合っ て 遊んだものだ。  
 jiNgwa nu k'wa: ja gui nu bo:sji kaTna t'IkItI ucjik'unasji asIbijutaQdo
49. ソテツの 葉で 帽子を 作り、 それを かぶって、 かけっこを した。  
 sut'Icu nu fa:sji bosji ba t'IkItI 'uru ba kaputI haruk'una sja: do
50. ソテツの 葉で 飛行機を 作って、  
 sut'Icu nu fa:sji hiko:k'i t'IkItI  
 だれが もっとも 高い ところに 飛ばすか 競った。  
 ta: ga t'Imari ta:saN turo gadI tubasuka ja sjopusja
51. どんなに あばれても、 まったく 疲れなかった。  
 ikjasji abarItIM maQtaK dareraNta do
52. 僕は 相撲では、 だれにも 負けなかった。  
 waNna sumo: turu ba tarinjuM mIheraNta do
53. 島 では、 子どもが 小学校 に 入った時 と、  
 sjima naNtI k'wa: nu sjo:gaQko: hacji iQcjaN cjikiN tu  
 中学校 を 出た 時に、 盛大に 祝った。  
 cju:gaQko: ba izjitaN cjikiNnja kINdorosja juwE: sju: tado
54. 親戚 や 家族が 集まるだけでなく、  
 sjiNdeNkja: ja ja:niNzjo: jurEdakeja ara:T  
 親 の 友人たち まで 来る。  
 uja nu dusjiNka: gadI umojuQdo
55. 祖父 と 祖母 の 友人なども 来る(来た)。  
 (1) FuQsju ta haNnje nu dusjiNkjaM umojuQdo  
 (2) FuQsju ta haNnje ta dusjiNkjaM umo:cjado
56. あの子 は、 私たちを 呼んでいるように、 手を 振っている。  
 (1) aN k'wa ja wa:kja ba abIjuN gutuNsji tI: futoruba  
 (2) aN k'wa ja wa:kja ba abItuN gutusji tI: ba futuQdo
57. ほら、また、 ちゃんと 髪も とかさずに、 外 に 出て行こうとして。  
 ure: mata k'jurasa kamacjiM jo:raN gutusji sutu ha:cji ikjo:cji sji
58. 髪を とかしてあげよう。 櫛 を さがして、 持ってきなさい。  
 kamaT sIcji: turaso sabaK ba tumI:tI muQcjikio



59. うちの お母さんは、私が 小さい 頃、 とても 厳しかった。  
 (1) ja: nu oQka ja waga ina:sariN nu kuro uturusja k'iQtatado  
 (2) ja: nu oQka ja waga ina:sariN nu kuro t'ImaR k'iQtatado
60. 目上 の 人 に 挨拶を しなかったり、  
 tusjikata nu c'ju: hacji e:saT sIraNtaR  
 敬語で 話さなかったりすると、叱られた。  
 ujamItI hanasji sIraNto i:kusarjutado
61. 嘘をついたり、 約束事を 守らないようなことが あると、  
 (1) araNkutu icjaR giNmE mamoraN kutu nu arIbaja  
 (2) sIrogutu icja:R giNmE mamoraN kutu nu arIbaja  
 長いこと 説教 された。  
 nagE:sa muN it'Iki sIraQta
62. 小さい子 を 泣かせた 時にも、 ひどく 怒られた。  
 inasaN k'wa: ba nakacjaN tukiniM t'imaR i:kusaQtado
63. 今では、 親の 言うこと(教え)には ひとつも 無駄がないと思う ように なったよ。  
 nama ja uja nu jusIgutuja sjitIduru ja neM cji omojuN gunusji natado
64. 弟 は 小さい 頃、 友達 と ケンカして、 泣かされたものだ。  
 utu:tu ja inasariN nu kuro dusjiNkja tu torio:tI nakasaQtaN muNdo
65. あの子 は、 たったひとりで 名瀬 から 来たのか。 感心だな。  
 aN k'wa ja naN c'juru sji nazje hara c'jaNcji kaNnsjin zjaja:

~~~~~  
Ⅲ. 生活

66. 毎日、 朝ごはんを 食べないと いけないよ。
 mainicji asabaN kamaMba ikjaNdo
67. 何度も 言っているのに、 あの子 は まったく 聞こうともしない。
 naNdomo icjiucjiatamuN aN k'wa ja ikjasjsjiM kikjo:cjiM sIraM
68. お前は 今日も ご飯も 食べずに 行くのか。
 ura ja kjuM munu mu kamaN gutusji ikjo:cjina
69. ちゃんと いっしょに ご飯を 食べてから、 遊びに いきなさい。
 cjaNto mazjin muN ba kadIQ kara asIbI ga iki
70. あの人 が ここに 来て から、 このことを 話し合おう。
 aN c'ju nu kuma hacj c'jiQ kara kuN kutu ba katare sIro
71. 時間 が なかったので、 歩きながら 話した。
 (1) zjikaN nu ne:dana aQkja gacjana kata: ta
 (2) zjikaN nu ne:dana aQkja gacjana katare sja:
72. 会う の なら、 明日より 明後日のほうが よいのだが。
 o:juNmuN narI ba acja juNma asaQte du iQcja suga

73. 昔 の 人 は、 朝 から 晩 まで、 よく 働いたものだ。
mukasji nu c'ju: ja sIkama hara juNk'ure gadI ji: hataracija muNzja
74. 子ども も、 畠仕事 や 家事 を よく 手伝った。
(1) k'waNkjaM hatehe sjigutu cjiba ja:sjigutu ji: tItIkasje sju: ta
(2) k'waNkjaM hatehe sjigutu cjiba jaucjigutu ji: tItIkasje sju: ta
75. 言うことを 聞かないと、いつも じいちゃんに 叱られた。
do:ho: kikjaNto it'iM fuQsjuN i: kusaQta
76. この仕事 は 子どもだって できるのに、 どうして お前に できないのか。
kuN sjigutu ja warabI deM sji: kirjumuN nu:ga ura ja sji: kirjamuNna
77. よく 働いている ね。
ji: hataracjuru ja:
78. そんなにまで して 仕事をしなくても、 よいのではないか。
gaQsji gadI sju:tI sjigutu sIraNtIM iQcjaQka neNna
79. 仕事 ばかり していたら、 身体に よくない。
sjigutu bIhEri sjuru ba du: naN iQcjakuneM
80. 疲れているのなら、明日でも いいよ。
(1) daretoru ba acja: sjiM iQcjaQdo
(2) daretoru ba ja acja: sjiM iQcjaQdo
81. 君 は 明日も ここ へ 来て くれるか。
ura ja acjaM kuma hacji c'ji: k'urIjuNnja
82. 昨日 の 会合には、 たくさん 人 が 来ると 思っていたが、
k'inju: nu jurE ja maNdI c'ju: nu kjuN cji umo:tuta muN
4人 しか 来なかった。
joniN sjikja kja: oraN ta
83. あの人は、 会合に 来るのか、 来ないのか、 はっきり わからない。
aN c'ju ja jurE hacji k'ju:muNgaro ko:muNgaro haQkirja wakaraM
84. 時間 が ないなら、 今日、 来なくても いいよ。
zjikaN nu neM baja kju: koNteM iQcjaQdo
85. ちょっと 疲れている から、 お茶を 飲んで 休もう。
nja:rI daretuN karaN cjaNkja nudi juhoro
86. お茶 でも 召し上がってください。
cja: deM misjo:cji tabore
(目下や子供に対して)
お茶 でも 飲んでいけ。 お茶 でも 飲め。
cja: deM nudi ikI cja: deM numI
87. あの人は、 先週 から 病気 で 休んでいる。
aN c'ju ja saku nu sju: hara bjoki sji jasuduQdo

88. なんで、今日も 仕事 しに 来たのか。
 nu:ga kjuM sjigutu sjiga c'ja:kaja
 まだ 風邪が なおっていないのに。
 nama kazje ja no:tIM ura:muN
89. しっかりと 食べて 行きなさいよ。
 t'Imari kade ikI:jo
90. 昨日 は よく 働いたので、 今日 は ちょっと 疲れている。
 k'inju: ja ji: k'ibataN karaN kju: ja nja:riQgwa darIturu
91. よく 寝たのに、 疲れ は とれなかった。
 ji: nIputamuN dare ja no:raN taQtu
92. 私は 毎日、 よく 歩いている。
 waNna maini:cj ji: aQcjuQdo
93. お前は、いつから 古仁屋に いるのか。
 (1) ura ja iT hara kunja naN uru jo:
 (2) ura ja iT kara kunja naN uru kaja
94. この ピーナツの菓子 は、 おいしいな。 どこで 買ったのか。
 kuN zjimamI gwasji ja m'a:sa ja: da:hara ko:tIQcji
95. それは、 港 の 売店 で 売っていたものだよ。
 'uQrja funat'IK hama nu miQsja naNtI utu: ta muNdo
96. おみやげ に、この 菓子を たくさん 買って 帰ろう。
 mja:geQgwa ba kuN kwasji maNdI ko:tI muduro
97. 今度、 港 に 行ったら、 お店で この 菓子を 探してみよう。
 kuNdu hama hacji ikIbaja miQsja naN kuN k'wasji ba tumItINnjo
98. あの 店 には、 いろんなものが 売っているよ。
 aN miQsja naNnja nasjara kusjara utuQdo
99. 今 は、 マンゴーの ジュースが よく 売れている ようだ。
 nama ja maNgo nu zju:su ja ji: uretoru cjagesaQdo
100. 港 へは、 バスで 行く より、 歩いて 行ったほうが 早い。
 (1) hama haQcja baQsji ikjuN juk'uma aQcji ikIbadu fe:saQdo
 (2) hama haQcja baQsji ikjuN juk'uma aQcji ikIbadu ufesaQdo

~~~~~  
**IV. 昔の家**

101. この 家は、 私が 小さい時から あった(建っていた) 家なので、  
 (1) kuN ja: ja waga ina:sariN nu kuro hara ataN ja: zjasuka  
 (2) kuN ja: ja waga ina:sariN hara taQcjutaN ja: zjasuka
102. その 時も 古い家 だったので、  
 'uN tukiM furu ja: ataNkaraN

- もう 80 年 ばかり、ここに 建っていると 思われる。  
 nja: hacjizju:neN bIhEri kuma naN taQcjuM cji umorajuQdo
103. 昔 の 家 は、母屋 と トーグラ(台所) から 作られていた。  
 mukasji nu ja: ja omote tu to:gura tusji t'IkIraQt'u:taN muNdo
104. 夏 は 涼しい よう、床下 は 高く、  
 naQta sudasjaN gutuN jukaQsja ja tahasa sji  
 風通し の 良い よう に 作られていた。  
 kadetosji nu iQcjaN gutuN sji t'IkIraQtu ta
105. トーグラ と 母屋 の 間 は、3尺 から 6尺 ぐらい あっただろう。  
 to:gura tu omote nu e:da ja saNzjaK kara rokusjaK bIhEri ataro
106. トーグラ は 炊事場のような もので、  
 to:gura ja suizjiba jo:na muNnatI  
 食べ物を 煮炊き する 場所 だった。  
 kamjumun nicjari sjuN toro ata do
107. そこ には、水甕、味噌甕、耳甕 などが 置いてあった。  
 'uma naNnja mIt'IhaNdo: misugamI miNgamI Nkja: ucjiata do
108. 耳甕 には 脂を 入れて おいた。  
 miNgamI naNnja: abura irItI ucjiata do
109. 水は、井戸 から 汲んで 桶 で 運び、  
 mIQta jugawa hara k'udIQcji wuhE sji katamItI  
 トーグラ の 中 の 水甕 に ためておいた。  
 (1) to:gura nu naha nu mIt'IgamI naN tamItI ucju: ta  
 (2) to:gura nu naha nu mIt'IgamI naN tamItuta
110. 昔は 「耳甕」 と 言って、豚の 脂 を 入れておく 瓶 が あったが、  
 mukaQsja miNgamI cji icji w'aN abura ba irItI ukjuN biN nu ataMbaM  
 今では 耳甕 は 見られなく なった。  
 nama ja miNgamI ja mirjaraN gunusji nata
111. 豚 の 三枚肉 を いためて 脂を とり、  
 (1) w'a: nu saNmai nik'u ba iQcji abura tutI  
 (2) w'a: nu saNmai nik'u ba iQcji abura ba tutI  
 耳甕 に 入れて おき、  
 miNgamI hacji irItI ucju: tI
112. 野菜 や そうめんを 料理 した ものだ。  
 jasE: zja so:mIN ba zjuri sju:taN muN do
113. にんにくの 葉 を いためる ためにも、使った ものだ。  
 (1) flru nu fa: ba iQkjuN tamIM t'uko:taN muNdo  
 (2) flru nu fa: ba iQkjuN tamIniM t'uko:taN muNdo

114. このあたりに 電気が通ったのは、私の まだ 子どものころだっただろう。  
 kuN k'iNzjo naN deNki nu to:taQsa waga nama warabI nu cjikiN ataro
115. たしか 昭和 10 年 ごろ だったかな。  
 tasjika sjo:wa zju:neN goro ataro ja:
116. それまでは、石油 を 入れた 「ホヤランプ」を 使っていた。  
 'uriN gadI ja sekiju ba irItaN fuja raNpu ba t'uko:tuta muN do
117. 石油 の 入った ガラス 瓶 の 上 に ホヤが ついていて、  
 seQk'ju nu iQcjaN garasu biN nu w'E: naN fuja nu tucji  
 そこに 火を 灯した。  
 'uma naN 'umaT tubocji
118. 煙 で ホヤが 黒く 汚れるので、  
 (1) kIbuQ sji fuja nu k'urusa jugurIjumuNnatI  
 (2) kIbuQ sji fuja nu k'usura jugurItI  
 毎日 ホヤの 掃除を しなければ ならなかった。  
 mainicji fuja nu so:zji s'IraNba naraN gunusji natutaN muNdo
119. 箸 や 木の 枝 の 先に ほろぎれを 巻いて、  
 hasji ja kIN jeda nu saK naN borogire macji:  
 それで ホヤの 中 を きれいに 掃除 したものだ。  
 'uru sji fuja nu naha ba k'jura:sa so:zji sju:tamuNdo
120. 夜 が 暮れても、 ランプの 明かりで  
 ju: nu k'urItIM raNpu nu akari sji  
 本 も よく 読める ように なった。  
 hoN daro ji:k'uNgwa jumarINgunusji natado
121. 今 は 夜 でも、 電気をつけて 仕事 が できるようになった。  
 (1) nama ja juru daro deNk'i t'IkItI sjigutu nu s'IrarIN gutusji nata do  
 (2) nama ja juru daro deNk'i t'IkItI sjigutu nu s'IrarIN gunusji nata do
122. ガスが 普及してから、 炊事場 の 仕事は、 だいぶ 楽になった。  
 gasu nu hajatIQ kara suizjiba nu sjigutu ja waro: raku nata do
123. それ以前は、 焚き木や 薪 を 釜戸 に くべて、  
 'urI juk'uma saQkja takigI zja uduru ba kama naN ucjo:cji  
 火を たいていた。  
 'umaT taQkIju:taN muNdo
124. トーグラには、 釜戸 が あった。  
 to:gura naNnja zjirjo: nu ata do
125. その釜戸 の 上 に お釜 を おいて、 そこで 米を 炊いていた。  
 'uN zjirjo: nu w'E: naN hagama ba isjitI 'uma naNtI misji: tacja: do

126. 風呂も 薪 で たいていた 家も、 多かった。  
 (1) furo daroka tak'iki sji ju: wahasjutaN jaM fu: sata do  
 (2) furo daroka uduru sji ju: wahasjutaN jaM fu: suta do
127. 薪 は、 野山 から 燃えやすい 木の 枝 を 集めて おいたものだ。  
 uduru ja jama hara mE: jaQsaN kI: jeda ba jusItI ukjutaN muNdo
128. 子どもたちも、 薪 を 拾ってくるのを よく 手伝ったもんだ。  
 (1) warabIN kjaM tak'ik hirjo: tI ji: kasje sju: ta muNdo  
 (2) warabIN kjaM uduru hirjo: tI ji: kasje sju: ta muNdo
129. 昔は、 斧 で 木 を 割って、 焚き木 を 用意した ものだ。  
 mukaQsja natamuN sji kI: watI tak'igI ba sadamI ju: ta muNdo
130. 50年 前 までは、 この村 の 家は ほとんど 木造 で、  
 (1) gozju: neNmae gadI ja kuN mura nu ja: ja aNkagIrI kImuNdIkurI sji  
 (2) gozju: neNmae gadI ja kuN mura nu ja: ja ja aNkagIrI kImuNdIkurI sji  
 屋根 は 萱ぶき だった。  
 jane ja gajabuK ata do
131. 今 は、 萱ぶき の 家は、 もう ほとんど 見られなくなってしまった。  
 (1) nama ja gajabuK nu ja: ja nja: aNka: R mirjaraN gutusji nata  
 (2) nama ja gajabuK nu ja: ja ja nja: aNka: R mirjaraN gutusji nata

~~~~~  
 V. 天候

132. 去年は 大きな 台風が たくさん 来たな。
 (1) kudu ja futesaN tepu nu maNdI c'ja: ja:
 (2) kudu ja futesaN tepu nu maNdI c'ja: do
133. 8月 の 台風では、 大きな 木 も たくさん 倒れた。
 (1) hacjigatu nu teQpja futesaN kI: daro maNdI to: rItI
 (2) hacjigatu nu teQpja futesaN kI: gadI maNdI to: rItI
134. 家 さえ 壊されるのでは ないか と 思って、 本当に 心配した。
 ja: daro k'jo: sarI jumuNna araN kaja: cji umo: tI fuNto: sjiwasja:
135. この島 の 夏は 暑い、 今年 は 特に 暑い。
 (1) kuN sjima nu naQta icja: saMbaM kutuQsja jufuM icja: sa
 (2) kuN sjima nu naQta icja: sasuga kutuQsja jufuM icja: sa
136. ああ、 今日 は 蒸し暑いな。
 hagE: kju: ja fumI: cji
137. この島 は、 いつも 蒸し暑い。
 kuN sjima ja it'IM fumI: cji
138. 私たち が 子どもの頃は、 扇風機 も クーラー も なかったので、
 wa: kja ga ina: sariNnja sjeMpu: kiM k'u:raM neNdana

139. 暑くても、 我慢するしか なかった。
 (1) fumIcjiM kune: juNsjikja neNta
 (2) aQtaMbaM kune: raNba naraNta
140. あの木の 下は、 風 が よく 通って、 涼しいよ。
 aN kI nu sja: ja kade nu zjik to: tI sIdasjaQdo
141. あの木の 下は 涼しいけれど、
 (1) aN kI nu sja: ja sIdasjasu ga
 (2) aN kI nu sja: ja sIdasja ja aMbaM
142. 昨日、 そこで 寝ていたら、 あちこち 蚊に くわれた。
 (1) k'inju: 'uma naN nIputaQtu amak'uma gazjamiN k'waQta
 (2) k'inju: 'uma naN nIpututaQtu amak'uma gazjamiN k'waQtI
143. 雨も 降っているし、 風も 吹いている。
 amIM futurusji kadeM fucjuru
144. 今日は 休んで、 明日 行こう。
 kju: ja juho:tI acja ikjo:
145. 傘も ささずに 雨の中を 歩いてはいけないよ。 風邪を ひくよ。
 (1) kasaM sasaN gunusji amIN naha aQcijja ikjaN do kazje hikjuQdo
 (2) kasaM sasaN gutuNsji amIN naha ba aQcijja ikjaNdo kazje hikjuQdo
146. 雨 が 降っても、風 が 強くても、
 amI nu futIM kade nu c'ju:satIM
 私 は かならず そこへ 行く。
 waNna kanaraT 'uma hacji ikjuQdo
147. 昨日 は、あまりにも 暑くて 畑仕事 が できなかったので、
 k'inju: ja aMmaR icjasatI hatehe sjigutu ja sIrraNaN karaN
 家 に もどった。
 ja: hacji mudo: ta
148. 夕方 は、 少し 涼しく なったから、
 jumagurINnja njaR sIdasjaku nataN karaN
 ちょっと だけ 仕事 が できた。
 nja: riQgwa dake sjigutu nu sIraQta
149. 今日 は 日 が とても 強い。
 kju: ja tI da nu t'Imari c'ju:sa
 帽子を かぶらなければ、 たおれてしまうぞ。
 busji kaburaN ba to:re zjasuka
150. いつまで、この 暑さ は 続くのだろうか。
 iT gadI kuN icja:sa ja t'ItIkjumuN kaja:
151. 今年 は、 去年 より ずっと 暑い のでは ないか。
 kutuQsja kudu juk'uma t'ImaR icja:sa muNna araN kaja:

152. 来週 こそ、少しは 涼しく な って ほ しい もの だ。
t'Iki nu sju: ba kusa njaQrja sIdasjaku natI fusja ja:
153. 今日 は 風 が 強 く て、 舟 は、 港 を 出 ら れ な さ そ う だ。
kju: ja kade nu c'ju:satI funI ja hama hara izjiraraN cjagesaQdo
154. ま っ す ぐ 立 っ て い る こ と も で き な い く ら い、 強 い 風 が 吹 い て い る ね。
(1) maQsugu taQcjuN kutuM dekIraN fusa c'ju:saN kade nu fucjuru
(2) maQsugu taQcjuN kutuM dekIraN fusa c'ju:saN kade nu fucjuru ja:
155. ほ ら、 あ の 川 を 見 て み ろ。
ure: aN ko: ba micjiNni
156. 雨 の せ い で、 川 の 水 が あ ふ れ そ う に な っ て い る よ。
amI nu jui sji ko: nu mIT nu aburero:tI sjuQdo
157. 大 風 が 吹 き、 雨 が 降 っ て、 も う そ の 川 は あ ふ れ そ う だ。
tepu nu fucji amI nu futI nja: 'uN ko ja aburI cjagesa
158. 雨 戸 は し っ か り 閉 め て お い た の に、 雨 は 家 の 中 に ま で、 し み て き た。
amado ja t'Imari sjimI:tI atamuN amI ja jaNnaha gadI sjiQta toruba
159. だ ん だ ん 寒 く な っ て き た ね。
(1) njaNnjana higuruku natIQcja
(2) njaNnjana higuruku natIQcja ja:
160. 去 年 買 っ た 電 気 ス ト ー ブ は、 ど こ に 置 い た か な。 倉 庫 の 中 か な。
kudu ko:taN deNkisuto:bu ja da: naN ucja:kaja: so:ko nu naha: kaja:
161. 今 の う ち に 出 し て お い た ほ う が よ さ そ う だ。
nama nu ucji izja:cji ukuba du iQcja cjagesa
162. 今日 は 天 気 が 良 さ そ う だ か ら、 洗 濯 し よ う。
kju: ja teNki nu iQcja cjagesaN karaN seNtaku sIro:
163. 今日 は 一 日 中、 晴 れ て い た か ら、 洗 濯 物 が 3 時 間 で 乾 い た。
kju: ja cjiNcjaru haretutaN kara sjeNtakumuNna saNzjikaN sji ko:racjado

~~~~~  
**VI. 島唄**

164. 奄   美   の   島   に   は、   島   唄   が   た   く   さ   ん   あ   る。  
amami nu sjima naNnja sjima uta nu mandI aQdo
165. 島   の   祭   り   や   祝   い   事   に   は、  
sjima nu mat'Iri zja juwegutuNnja  
島   唄   は   ど   う   し   て   も   欠   か   せ   な   い。  
sjima uta ja ikjaQsjisjiM neNba naramuN do
166. 多   く   の   島   唄   の   中   で、  
maNduN sjima uta nu naha naNtI



- 朝花節は、まず真っ先に唄われる唄だ。  
 asabanabuQsja t'ImaR maQsaku otorajuN uta do
167. 朝花節は、にぎやかな祝いの席で唄われる唄だ。  
 asabanabusji ja hokorasja juwEN otojuN uta do
168. 朝花節は、祝いごとの集まりの場において、よく唄われるものだ。  
 (1) asabana busjiQsja juwEgutu nu at'Imari nu turo naNtI ji: otoju: muN do  
 (2) asabana busjiQsja juwEgutu nu at'Imari nu turo naNtI ji: otoraju: muN do
169. 島の祭りには、老人たちから子どもたちまで、  
 sjima nu mat'IriNnja 'uQcjuNkja: hara k'waNkja: gadI  
 島の人 みんなが 集まった。  
 (1) sjimaNcju aNkagIrI aTmata  
 (2) sjimaNcju uNkagIrI aTmata
170. 三味線は、男が弾くことが多い。  
 saMsjeNna jiNga nu hikju: muN du ufu:saru
171. この頃は、女の人も三味線を弾くようになった。  
 (1) cjikjaguro ja wunagunu c'juM saMsjeN hikjuN gunusji nata  
 (2) cjikjaguro ja wunagunu c'juM saMsjeN ba hikjuN gunusji nata
172. 三味線は、簡単そうに見えるが、実はそんなに簡単ではない。  
 saMsjeNna kaNtaN cji mirjajuNbaN zjiQta gaQsji kaNtaNna muNna araNdo
173. これから、のり子が島唄を唄うから、  
 nama hara noriko ga sjima uta otojuN karaN  
 ちょっとあの三味線を貸してくれ。  
 iQtuK aN saMsjeN karacji k'urIrI
174. このバチは太すぎて、少し使いにくいね。  
 (1) kuN bacji ja futesa sIkIcji njaR t'IkE gurusja  
 (2) kuN bacji ja futesa sIkIcji njaR t'IkE gurusja ja:  
 (3) kuN bacji ja futesa sIkIcji njaR t'IkE gurusjaru ja:
175. もうちょっと弾きやすいバチはないのか。  
 nja: fe: hikijaQsaN bacji ja neN kaja:
176. 昨日からずっと練習しているが、この唄はなかなか難しい。  
 k'inju: hara jeito reNsju: sjuNbaN kuN uta ja t'Imari mIt'Ikasja
177. この唄は長すぎて、とても一日では覚えられそうもない。  
 kuN uta ja nagasa sIkIcji tut'IM c'jui sjija nare:kirjaN cjagesa
178. あの女の子は若いのに、  
 (1) aN wunagu nu k'wa: ja wahaN muNnu  
 (2) aN wunagu nu k'wa: ja wahaNbaM  
 (3) aN wunagu nu k'wa: ja wahaN k'wa: zjaMbaM

- 島唄を 唄うのが とても うまい。
- (1) sjima uta ja zjiK zjoQdo  
 (2) sjima uta otojumuNna tut'iM zjoQdo  
 (3) sjima uta otojumuNna tut'iM zjoQdo
179. 私 は、何と言っても、あの子 が 島一番 の 唄者だ と 思っているよ。  
 waNna nuQcji icjiM aN k'wa ga sjima icjibaN nu uta:sja cji umo:tuQdo
180. あの子 が 唄うんだったら、 ぜひとも 聞きに 行きたいね。  
 (1) aN k'wa nu otojuM cji naru baja ikjasjideM sji k'iQga ikIbusja  
 (2) aN k'wa nu otojuM cji naru baja ikjasjideM sji k'ikiga ikIbusjaQ do
181. 今年 の 島唄 大会 では、 だれが 優勝 したのか。  
 kutusji nu sjima uta taikwai naNtI ta: ga ju:sjo: sja: kai
182. これ から シズノ の ところに、 三味線、 島唄 を 習いに 行くのだ。  
 (1) nama hara sjizuno nu turo hacji saMsjeN sjima uta narega ikjo: cjido  
 (2) nama hara sjizuno ta turo hacji saMsjeN sjima uta narega ikjo: cjido
183. あの子 の ところで、 しっかり 三味線 を 習って こいよ。  
 aN c'ju nu turo naNtI t'ImaR saMsjeN naro:tI ko jo:
184. あの子 は、 誰に 三味線 を 教えているのか。  
 aN c'ju ja tariN saMsjeN ba jusI:toru kaja
185. シズノの 家 に 行くと、 いつも 三味線 の 音 が 聞こえる。  
 sjizuno ta ja: hacji ikIba it'IM saMsjeN nu uto nu k'ikjajuru
186. 島唄 は、 同じ 唄 でも 島 に よって 少しずつ 唄い方 が 違う。  
 (1) sjimauta ja t'IT utadeM sjima naN jutI nja:rI uteikata nu cjigjajuru  
 (2) sjimauta ja t'IT utadeM sjima naN jutI nja:Nnjana uteikata nu cjigjajuru
187. 太鼓 は、 女 の 人 が 叩くことが 多い のでは ないか。  
 t'IdIMmja wunagu nu c'ju: nu ucju:muNdu ufo: sa muNna araN kai
188. 昔、 太鼓 は、 ノロ が 神 を 招き 寄せるのに 使っていた そうだ。  
 mukasji t'IdIMmja noro ga kami ba manIk'I jusIjuNtamI t'ikojutaN muN cjido
189. 八月 踊り では、 女 だけが 太鼓 を 打つ 島も ある ようだ。  
 hacjigaT odorinnja wunagu dake sji t'IdIM ucjuN sjimaM aru cjagesaQdo

~~~~~

Ⅶ. 島酒

190. 奄美 では、 日本酒 より 焼酎のほうが、 よく 飲まれている。
 sjima naNtI ja nihoNsju juNma sjimadIhE du jeito numajuQdo
191. ここ の 焼酎 は、 黒砂糖 で 作られている。
 kuma nu sIhE ja k'uruzata sjidu t'IkIrjuQdo
192. 近頃 は 酒 が だんだん 高くなってきた。
 cjikjagoro ja sIhE nu daNdaN ta:k'u natIQc'ja

193. 酒を 買いに 行こう。
 sIhE kE: ga ikjo: ja
194. あんまり 高い のは、 買いたく ない。
 (1) aMmaR tahasaN muNna kE: busjaQkja neM
 (2) aMmaR tahasa muNna kE: busjaQka neM
195. この 酒 と あの 酒 とでは どちらが おいしいだろうか？
 kuN sIhE tu aN sIhE tu ja dIrI ga m'a: saru kai (m'a: saru kaja)
196. これ より、 あれ が よさそうだな。
 kurI juk'uma aQdo iQcjagesa ja:
197. ええっ、 そんな に 高いのなら、 もう 買うの は やめよう。
 hagE gaQsji gadI ta: saru ba nja ko: jumuNna jamIro
198. 昨日 買った 酒 は 本当 に 高かった。
 k'inju: ko: taN sIhE ja huNto: tahasuta do
199. 酒 は、 飲みなく ない 人 に、 無理に 飲ませてはいけない。
 (1) sIhE ja nuMbusjak'uM neN cjuN murini numacjija ikjaN do
 (2) sIhE ja nuMbusjak'u neN cjuN murini numacjija ikjaN do
200. 私たちは、 タベ、 酒を 飲み ながら、 昔 のことを いろいろと 話した。
 wa: kja ja jubE: sIhE: numja gacjana mukasji nu kutu irjuirju hana: cja
201. たった それだけ 残すのか。 もったいないな。
 garaN gaQsa nuhosjuNnja aQtara muN
202. 酒 は 多ければ 多いほど、 良いぞ。
 (1) sIhE ja ufu: saru ba ufu: saru hudu iQcjaQ do
 (2) sIhE ja fu: saru ba fu: saru hudu iQcjaQ do
203. 飲み たければ、 いくら でも あるぞ。
 nuM busjaru ba ikjaQsa deM aQdo
204. お酒 は 飲まないで、 ご飯を 食べよう。
 sIhE ja numaN gutuNsji muN kamo
205. あの人も、 ここ に 呼ぼうか。
 aN c'juM kuma hacji abIro: kai
206. あの人は 今、 忙し そうだが、 呼べば 喜んで 来るだろう。
 aN c'ju ja nama icjonasja cjagesaMbaM abIrIba jurukudI kju: ro do
207. まだ 料理を 食べないで、 あの人が 来るのを 待っていよう。
 (1) nama sju: kI kamaNgunuNsji aN c'ju nu omo: juNmuN maQc'juro
 (2) nama sju: kI kamaNgunusji aN c'ju nu omo: ju: muN maQc'juro
208. この 刺身 は、 なんの 刺身 かな。
 kuN sasjimi ja nu: nu sasjimi kaja:
209. だれが このすしを 注文したのか。
 ta: ga kuN susji ba taNdI jo

210. そんなに たくさん コップに 酒を 入れたら、
 gaQsji gadI maNdi koQpu naN slhE irIrlba
 とても 飲みきれないよ。
 tut'IM numikirjaN do
211. あの店 には、奄美 の 島酒なら 何でも そろっている。
 aN miQsja naNnja amami nu sjimadlhE ja nu:deM surotuQdo
212. 近頃 は、インターネットで 全国販売 している らしい。
 (1) cijkjagoro ja iNta:neQto sji zjeNkoku haNbai sjuru cjagesa
 (2) cijkjagoro ja iNta:neQto sji zjeNkoku sjo: bai sjuru cjagesa
213. この 酒 は 初めて 見る 酒 だ。 おいしい 酒 だろうか。
 kuN slhE ja hazjimItI mijuN slhE zja m'a:saN slhE daro kaja:
214. ビンを見た だけでは、おいしいか どうかは 分からないよ。
 (1) biN micjaN dakesji ja m'a:saNka ikjasjika wakaraN do
 (2) biN micjaN dakeNsji ja m'a:saN slhe ka ikjasjika wakaraN doja
215. この 酒 の ビンの 蓋は、 どうやって 開けるのか。
 (1) kuN slhE nu biN nu futa ja ikjasji uferju muN kaja:
 (2) kuN slhE nu biN nu futa ja ikjasji sji ferju muN kaja:
216. この 酒 は 今、 店 に 3本 しか おいていない そうだ。
 kuN slhE ja nama misje naN saNboN sjika uc'jo:cjuraN cjido
217. 今度 店 に 来たときには、 もう なくなっ ている かもしれない。
 kuNdo misje hacji kjuN tukiNnja nja: neN gutuNsji natuN kamo sjireraNdo
218. よし、 今、 買って おこう。
 (1) josji nama ko:tI uko:
 (2) josji nama ko:tI ucjuQko
219. この 酒 は、 いくら ですか。
 kuN slhE ja ikjaQsa kai

~~~~~  
**VIII. 動物**

220. ハブは 毒 が あるので、 畑 で 仕事をする ときには、  
 haQpja duku nu a:muN natI hatehe naNtI sjigutu sjuN tuk'iNnja  
 十分 注意 しなければならない。  
 t'imari jo:zjiN sIraNba ikjaNdo
221. ハブは 山 の 中 で 兎 や 蛙 を 食べて 生きているらしい。  
 haQpja jama nu naha naNtI usaK cjiba biki ba kadutI du ikicjuN cjagesa
222. ハブは、 4月 の 初めごろに 活発に 動き回る。  
 haQpja sjigwaT nu hazjimI goro ikirja:gatI dugEjuQdo
223. 昔は この道 で よく ハブ が 出た ものだ。  
 mukaQsja kuNmicji naNtI ji: hapu nu izijuta muNdo

224. ハブ捕り用の 棒 を 作って、 鳥 の あちこちや、  
 haP tori jo: nu gui t'IkItI sjima nu amak'uma naN  
 子どもたちの 通る道 などに 置いた。  
 k'waNkja nu kae:micji naN du ucjiata do
225. そんな ところで 寝ていたら、 ハブ に かまれるぞ。  
 gaQsjuN toro naNtI nIputuru ba habuN kamajuQdo
226. 畑 で 夕方 まで 砂糖黍をとっていたら、いきなり ハブ が 出てきて、  
 hatehe naN junok'ucji gadI wugi sju:taQtu atadaN hapu nu izjitIcji
227. 棒 で つついて脅かしたら、 木の下に 逃げて行った。  
 gui sji tikjatikja sjaQt'u kINsja hacji nigItI izja
228. ああ、 あの時 の ことを 思い出すと、 今も ぞっとする。  
 hagE: aNcjikiN nu kutu umE:zjasu ba nama niM uturusjaQdo
229. このハブは、 まったく 動いていないように 見えるが、  
 kuN haQpja t'iQcjuma dugEturaN gunusji mirjajusu ga  
 まだ 生きているぞ。  
 nama ikicjuQdo
230. ハブは、 ゆっくりと 荒地の中に 入っていった。  
 haQpja judejude areMmI hacji iQc'ji izja
231. あの鳥は、 歌を 歌っているかのように 鳴いている。  
 (1) aN tuQrja uta: uto:tuN gunusji nacjuQdo  
 (2) aN tuQrja uta: uto:juN gutuNsji nacjuQdo  
 (3) aN tuQrja uta: uto:tuN gutuN nacjuQdo  
 (4) aN turiQgwa ja uta: uto:tuN gutuNsji nacjuru ba
232. 隣の 家で 飼っている 山羊 が、 山 に 逃げた そうだ。  
 tunaNnu ja: naNtI t'IkanatuN hiNzja nu jama hacji nigItaN cjiba
233. 山 の 中を あちこち 探したけれど、 見つからない そうだ。  
 jama nu naha amakuma tumItaNbaM mIQk'araraN cjido
234. あの 水溜り に、 蛙 が いるのを 見たぞ。  
 aN mIQtamaR naN biki nu wu: muN micja do
235. 何を 見ているのか。  
 nu: ba micjuru kaja:
236. ほら、 あそこの 木の 枝 に とまっている 青い 鳥 を 見てみろ。  
 ure: ama nu kI: nu juda naN tumatuN o:saN toR ba micjiNni
237. あれは、 山鳩 じゃない か。  
 aQrja jama bato ja araN kaja:
238. どこに いる? 眼鏡を かけないと、 よく 見えないな。  
 (1) da: naN uru mIgone kIhEraNba iQcja mirjaraM ja:  
 (2) da: naN uru mIgone kE:raNba iQcja mirjaraM ja:

239. ああ、あれは 山鳩 じゃないよ。 カラス だよ。  
 (1) a:i arja jama bato ja araN do garasu daro  
 (2) ai arja jama bato ja araN doja: karasu do
240. あの 牛は、 角も、 尻尾も、 長くて 大きいね。  
 aN uQsja t'InoM dIboM nagasatI futesaru ja:
241. ほら、あの家の 門 から、 黒い猫 が 出てきたぞ。  
 ure: aN ja nu moN hara k'uru mja nu izjitIcja do
242. あ、あそこに 子犬 が いる。 どうやら、 けがを しているみたいだね。  
 are: ama naN k'wa:iN nu uru do:samneN kIga sjuru cjagesaQdo
243. ほら、あの 草むらの あたりに、 バッタが たくさん 飛んでいるよ。  
 are: aN areMmI date gaQta nu maNdI tuduQdo
244. あの島 では、 最近、 いのししが 増えて、  
 aN sjima naNtI ja cjkjagoro sjisji nu fu:kunatI  
 人の数 より 多くなった そうだ。  
 (1) c'juN kadI juk'uma ufuku nataM cjido  
 (2) c'juN kadI juk'uma fuku nataM cjido
245. いのししが、 畑 の 野菜を 食べてしまうので、  
 sjisji nu hatehe nu jasE: kamihinarasju muN natI  
 島 の 人たちは みんな 困っている ようだ。  
 sjima nu c'juNkja ja miNna kumatoru cjagesaQdo
246. 車 で 山道を 走っていたら、  
 k'uruma sji jama hacji hasjurjutaQtu
247. いきなり、何か 黒い 小さいものが 2つ、  
 atadaN nu:garo k'urusa sji inamuN nu t'a:T  
 道 の 上のほう から 落ちてきた。  
 miT nu w'a:bucji kara utItI cjado
248. それは、 二匹 の いのししの子 だった。  
 'uQrja nihikI nu sjisji nu k'waQgwa ata
249. いのししは、道を 横切って、 反対 の 林の 中に 走って行った。  
 sjisji ja micji bata jokogicji haNtai nu jamaN naha hacji hasjicji izja

~~~~~

Ⅹ. 農作物

250. この 畑 には、 もう にんにくが 植えてあるのだが、
 (1) kuN hatehe naNnja nja: flru ba wE:tI ata muN zjasuka
 (2) kuN hatehe ja nja: flru ba wE:tI ata muN zjasuka
251. あっちの 畑 には、 豆 と カボチャを 植えよう と思っているのだが、
 ama nu hatehe naNnja mamI: tu to:t'Iburu ba wE:ro:cji umo:tusu ga

252. 近頃 は、雨 が 降らなくて 困っている。
 (1) cijkjagoro ja amI nu furadana kumatuQdo
 (2) 'uNkuro ja amI nu furadana kumatuQdo
253. これ から 畑 に さつま芋の 苗を 植えに 行くのだ。
 nama hara hatehe hacji hanusu nu kara: wE: ga ikjo: cji do
254. 野菜 は、店 で 買う より、 自分で 作ったほうが よい。
 jasE: ja miQsja naNtI ko: juk'uma du: sji t'IKtamuNdo iQcjaQdo
255. 一昨年 は たくさん 採れたが、 去年 は みかんが あまり 採れなかった。
 (1) micjunati ja mandI toraQtaMbaM kudu ja nIkaNna aMmaR toraraNta
 (2) micjunati ja mandI toraQtamuN kudu ja nIkaNna aMmaR toraraNta
256. 一昨年 は、枝 が 折れる ほどに、たくさん 実 が なっていたな。
 micjunati ja jedu nu wure gadI mandI mi: nu natuta muN ja:
257. 今年 の みかん は、去年 より ずっと 甘いよ。
 (1) kutusji nu nIkaNna kudu juk'uma t'imari amasaQdo
 (2) kutusji nu nIkaNna kudu juk'uma muru: amasaru do
258. 奄美 の 島では、昔は さつま芋が 主食 だった。
 amami nu sjima ja mukaQsja hanusu ga haNmI nacju: taN muNdo
259. 田芋、 里芋、さつま芋 など は、今 でも みんな（誰でも）よく 食べる。
 ta:umu umu hanusu nuN kja: ja nama niM taQdeM ji: misjojuQdo
260. さつま芋 は、ミキを 作る 時にも、 使われる。
 hanuQsa miK t'IkIrjuN tuki niM tukorajuQdo
261. これ から ミキを 作る ので、
 nama hara miK t'IkIrjuN karaN
 ばあちゃんの ところへ 行って 臼を 借りて来い。
 haNnje ta turo izji usI katIQko
262. 奄美 で は、そうめんを 汁 に 入れたり、
 sjima naNtI ja so:mIN ba sjiru naN irItarI
 野菜 と いっしょに 煮たりして、よく 食べた。
 (1) jasE: to mazjiN nicjaR sji ji: misjojuta muNdo
 (2) jasE: to mazjiN nicjaR sji ji: misjocjaN muNdo
263. さつま芋の 苗を 植えに 行く 時は、 籠を 忘れずに 持って いけよ。
 hanusu nu kara: wE: ga ikjuN tuk'iN fIra: wasureraN gutuNsji iKi jo
264. あの 畑 に 植えた 里芋は、 いつ頃 収穫する（掘る）つもりなのか。
 ama nu hatehe naN wE: taN umu ja it'Igoro furjuQt'ImoR kaja:
265. この さつま芋 は、今、 畑 から 掘り出した ばかりだ。
 kuN hanuQsa nama hatehe hara furIzjacjaN bIhER do

266. 紙 に 包んで、姉ちゃん のところに このさつま芋を持って 行ってあげよう。
kaP naN t'INdI aneQgwa nu turo hacji kuN hanusu muQcji izji: k'urI ro
267. 昔は、 畑仕事 にも、 さつま芋 を 弁当にして 持っていた。
mukaQsja hatehe sjigutuM hanusu ba haMmI nacji muQcji ikju:ta deja
268. あの 畑 の 畔道 を 歩いてくる 背 の 高い 子 は だれだろう。
aN hatehe nu ademicji ba aQcji ikjuN tIhe nu ta:saN k'wa ja taru kaja
269. あなたの家の 庭 は 広いから、 野菜だって 作れる ね。
(1) na: ja nu niwa ja hirjusaN karaN jasE: daro t'Kirjarjuru ja:
(2) na: ja nu niwa ja hirusaN kara jasE: daro t'Kirjajuru ja:
270. これは 自分で 作った 野菜 だが、 なかなか おいし そうだ。
kuQrja du: sji t'Ik'ItaN jasE: zjaga z'jiku m'a:sa cjagesa
271. 畑 で とれた 野菜 や さつま芋 は、
hatehe naNtI tutaN jasE: zja hanuQsa
いつも この 籠 に 入れて、 かついで 持って 帰る。
it'IM kuN t'Iru naN irItI haQgEtI muQcji mudujuru
272. 久しぶりに 餅 を 搗いてみよう と 思ったが、
nagInagI mucji tucji mirjo: cji umotutaMbaM
杵 が 見つからない。
(1) adImu nu mirjaraN
(2) adImu nu tumIrraraN
273. たしか、 納屋 の どこかに しまっておいた はずだが、
t'ImaR to:gura nu da: kana sjimatI ucjiataN haQzjaga
274. どこ に しまったの だろうか。 どうしても 思い出せない。
da: naN sjimaQsja muNkai ikjasji sjiM umE:zjasji k'irjaN
275. 納屋 の 中を あちこち 探していたら、
to:gura nu naha amakuma tumItutaQtu
昔 使っていた 鍬を 見つけた。
mukasji t'uko:tutaN to:gE mIQkItI
276. この 鍬 は、 もう 使わない と 思う。 もう、 捨ててしまおう。
kuN to:gE ja nja: t'ukoraraN cji umojuru nja: sjitIraN ba
277. なんで、その鍬を 捨てようとするのか。 まだ、 使えるじゃないか。
nu:ga uN to:gE sjitIro:cji sjuM muNna nama t'IKorarju muNna araNna
278. でも、 もう 柄 の ところが 腐って、 折れ そうに なっているよ。
zjaMbaM nja: ji: nu turo nu kusarItI wurI cjageku natuQdo
279. そろそろ 砂糖黍を収穫する 季節に なったなあ。
cjikjazjikja sutasji nu sjitI zja suka

280. この工場の人たちは、今、砂糖作りに追われている。
kuN ko:ba nu c'juNkja ja nama ja sutat'Ikuru naN w'a:rasaQturu
281. これは、たくさん黒砂糖が入っているよ。
kurja t'ImaR k'uru zata nu iQcjuru ja
282. あの木の上に生っている蜜柑は、おいしそうだ。
aN kI: nu w'E: naN natuN nIkaNna m'a: sa cjagesa
283. カラスが食べてしまわないうちに、とっておこう。
karasu nu kamaN ucji naNtI tutI uko:
284. さっき、あの蜜柑をとろうとしたが、
namasaK aN nIkaN turocji sjaMbaM
木が高すぎて、手がとどかなかった。
kI: nu ta:satI tI: nu totukaN ta

~~~~~

**X. 名瀬行**

285. 名瀬には三味線や太鼓を売っている店がたくさんある。  
nasje naNtI ja saMsjeN zja t'IdIM utuN miQsja nu maNdi aQdo
286. どちらへいらっしゃるのですか。  
da: hacji umoro: cji
287. 名瀬へ、三味線を買いに行こうと思っているのだが。  
nasje hacji saMsjeN kE: ga ikjo: cji umotusu ga
288. 名瀬で三味線を買いに行こうと思っていたが、  
nasje naNtI saMsjeN kE: ga ikjo: cji umotusu ga  
高くてとても買えなかった。  
tahasutI tutIM kE: kirjaN ta
289. 名瀬へ行くバスは、ここから出る。  
nasje hacji ikjuN baQsa kuma hara izijjuQdo
290. 今出れば、バスに間に合うかもしれない。  
nama izjirI ba basu naN mani o:juN kamusjirIran
291. バス停に着いたら、バスはもう出てしまっていた。  
basute: hacji t'IcjaQtu baQsa nja: izji:tI uraN ba
292. 名瀬へはよくバスで行くよ。  
(1) nasje haQcja ji: baQsji ikjuQdo  
(2) nasje haQcja ji: baQsji du ikjuQdo
293. 昔はトンネルがなく、  
mukaQsja toNneru nu ne: dana  
海岸や山の上をバスが走っていたので、  
kaigaN zja jamaN w'E ba basu nu hasjurjutaN karaN

294. 名瀬 まで (は) 4時間(も) かかっていた 時も あったよ。  
 (1) nasje gadi jozjikaN ka:jutaN cjikiM ata do  
 (2) nasje gadi ja jozjikanuM ka:jutaN cjikiM ata do
295. 今 は トンネルが たくさん 作られていて (あって)、 早くなり、  
 (1) nama ja toNneru nu mandI t'IkIraQtI hE:kunati  
 (2) nama ja toNneru nu mandI t'IkIraQtI atI hE:kunati  
 たった 1時間 半 で 行ける。  
 nja: icjizjikaN haN sji ikjarjuQdo
296. 名瀬 では、 いつも 何を する？  
 nazje naNti ja it'IM nu: ba sjuru jo
297. 洋服 や 本を 買ったり、 お菓子を 食べたりする。  
 (1) k'juragiN zja hoN ko:taR k'wasji ba kadaru sjuru  
 (2) k'jurafuku zja hoN ko:taR k'wasji ba kadaru sjuru
298. 私 も いっしょに 名瀬 に 行きたいが、 時間 が ない。  
 waN daro mazjiN nasje hacji ikI busjaM baM hima nu neM
299. 名瀬 に 行ったら、 おいしい 菓子を 買って あげよう。  
 nazje hacji izjiQki ba m'a:saN k'wasji ko:ti k'urI ro
300. (私は) 今日、 名瀬 に 行く つもり だが、  
 waNna kju: nasje hacji ikjuN t'ImorI zjaNkana  
 (私の) 車 に 乗せて行って あげようか。  
 wa: k'uruma naN nusItI k'urIjo: mi
301. 一時 過ぎ 頃、 家 へ いらっしゃい。 待って いる から。  
 (1) icjizji sugi guro ja: hacji umorI ba maQcjurja oN kara  
 (2) icjizji sugi guro ja: hacji umorI ba maQcjurja oN karaN
302. あれえ、 すっかり 待たせてしまったね。 ごめんなさい。  
 hagE: t'ImaR matasjiN sjocja ja: kunItI tabore
303. 名瀬 は 昔 とは すっかり 変わってしまった。  
 nazje ja mukasji tuja muru: kawataQtu
304. 小さな 店 が だんだん 少なくなっ ちゃって、  
 inasaN miQsja ja daNdaN ik'irjaku natI
305. 大きな ビルや スーパーが たくさん できてきている。  
 fute:saN biru ja su:pa nu maNdi izjibat'IQcjaQt'u
306. あ、 あそこにも 新しい店 が できている。  
 are: amana niM mi: miQsja nu izjitoR  
 ちょっと 中に入っ て 見てみよう。  
 iQtoku naha iQcji micjiNnjo
307. この店 は、 ずいぶん 広いなあ。  
 kuN miQsja ja tE:gE: hirjusaru ja:

308. 孫 の 成人 の お祝いに、  
 maga nu seizjiN nu juwE:  
 名瀬 で 帯 を 買ってあげようと 思っているが。  
 nazje naNtI ubi ba ko:tI k'urIro: cji omo:tusu ga
309. どんな 色 が いい かな。  
 (1) ikjasjuN irjo ga iQcjaru kai  
 (2) ikjasjaN irju ga iQcjaru kai
310. あの 赤い 帯 と、 こっちの 青い の を 見せて ください。  
 aN ahasaN ubi tu kuma nu aosaN muN ba misjitI tabore
311. 孫 は 赤い 色 が 好きだ から、 こっちの 赤い 帯 を 買ってあげよう。  
 maga ja aha irjo du sukizjaN kara kuma nu aha ubi ba ko:tI turaso
312. 今、 何時 かな。 急いで、 帰らなきゃ ならない。  
 nama naNzji kaja isjogatI modoraNba nugoraN
313. もう、 古仁屋 に 着いたのか。 思った より、 早かったね。  
 (1) nja: kunja hacji t'Icjakai omotaN juNma fE:sata ja:  
 (2) nja: kunja hacji t'Icjakai omotaN juk'uma fE:sata ja:  
 (3) nja: kunja hacji t'Icjakai omotaN juk'uma fE:suta ja:
314. 今、 名瀬 は、 トンネル が できて すごく 近く なった。  
 nja: nazje ja toNneru nu dekItI muru: cijkjaku natI
315. あの トンネル が できて (作られて) から、  
 aN toNneru nu t'IkIraQtI kara  
 名瀬 は ずっと 近く なった ような 気 が する。  
 nazje ja muru: cijkjak'u nataN gutuN ki: nu sjuru
316. いつ、 名瀬 から 戻ってきたのか。  
 iT nazje hara mudotIcji  
 (いつ 名瀬 から 戻って いらっしやったのですか。)  
 ( iT nazje hara mudo:tI umo:cji )
317. どんな 帯 を 買ってきたのか、  
 (1) ikjasjaN ubi ko:tIQcji jo  
 (2) ikjasjuN ubi ko:tIQcji jo  
 私 にも ちょっと 見せて くれ。  
 wanuN daka nja:riQgwa misjitI k'urIrI

注：本調査表の全体、あるいは一部を使用して調査を行う場合は、その成果公開の際に、論文・図書・データベースその他の中において、本稿を引用するだけでなく、調査表作成者（義永秀親、松森晶子）についても明記してください。